



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2023年02月27日 第1107号「週刊五十嵐レポート」

棲み分け

2月25日付日経新聞、「デジカメ単価3年で2倍」という記事。2022年の世界のデジタルカメラ平均単価は85,000円と3年前と比べて2倍超に上昇。スマートフォンで縮小してきたデジカメだが、こだわって撮影したいという市場を切り開いている。

デジカメ市場は2008年に出荷額が約2兆1600億円、出荷台数は約1億2千万台(@18,000円)あった。カメラを搭載したスマホが台頭し、カメラメーカーは高級機種に主力製品をシフトし、人工知能など先端技術を活用し高速で動く被写体を撮影・認識できるミラーレスカメラの人气が高くなった。

2022年の出荷額は3分の1程度(推定7200億円)。平均単価@85,000円(08年比4.7倍)であるので、出荷台数は約847万台と推定される。08年比7%。現在のデジカメ市場は日本勢が9割超占めている。キヤノン、ニコン、富士フイルムのカメラ部門の営業利益は高水準となった。

ここから読み取れるのは、代替品によって市場が縮小していった。しかし代替品より高付加価値(高価格帯)を求め、小さい市場ながらも顧客のニーズをつかんだ。低価格・大量生産のときよりも利益を生んだ。小さな市場ということもあり、現在のところ、低価格・大量生産の得意な中国系企業の参入はない。スマホとの棲み分けができ始めた。

小さな会社が学ぶことは、「棲み分け」。大手が参入しづらい市場を見つける。価格競争に巻き込まれない。付加価値を高め、しっかり粗利益を確保する。

言うのは簡単だが、実行するのは容易くない。日ごろから「もしかしたら、ひっとしてこの市場は、誰もやっていないのでは、力を入れていないのでは」と思いついたら、試しにやってみる。そこからいろいろな発見が出てくる。

ある工務店は、地元地域に限定して営業している。遠くに行かないことを決めた。5年、6年やっていくと、地元の顧客だけで高収益企業になった(値引き競争はしない)。つまるところ、同業者と同じことをしない、ということ。

ちょっと
気になる出来事

2月21日付日経新聞、「KYB、車部品生産国内回帰」「日本、際立つ低賃金」という記事。

油圧機器大手のカヤバ(KYB)は一部の足回り部品の生産を北米から日本に移す。地政学リスクの高まりと人件費などのコストが相対的に低い日本に生産などの機能を回帰させる動きが広がってきた。

米労働統計局によると21年5月時点の製造業平均時給は27.7ドル(約3600円、円ドル130円換算)。一方経団連によると21年6月時点の製造業平均月例賃金は約43万円(時給換算2500円、年間516万円)。

経済協力開発機構(OECD)によると日本の平均賃金は21年時点で約39,700ドル(ドル130円換算で516万円)、OECD加盟国平均賃金は約51,600ドル(ドル130円換算で670万円)、米国は約70,000ドル以上(910万円以上)。

確かに製造業の国際競争力は出てくるだろう。これだけ見ていると、日本は発展途上国か。新たに、日本から良質な製品、サービスが輸出できる。



一口メモ
知識

賢人に教えを乞(こ)う

翩翩(へんぺん)として富(と)めりとせず、その隣と以(とも)にす。戒めずしてもって孚(まこと)あり。

「翩翩(へんぺん)」は鳥がひらひらと舞い降りる様。泰平の世が乱れることを察し、上位の者が自分は能力が足りないと心を空しくして下位の賢人に教えを乞う。

安定した世の中に傾きが見え始めたとき、実力のない者が上位に胡坐(あぐら)をかいていては、世の中は急激に傾いて、手立てがなくなる。

こうした時は、個人のプライドを捨てて、誠心誠意を表して下位にいる賢者の助けを求めることである。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

